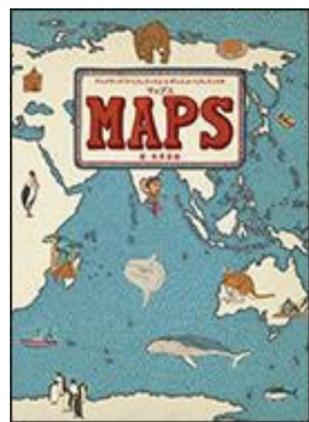


うちどく すいしん  
時津町は「家読」を推進しています

# たまには テレビをけして

こうがくねんむ ねん ぶゆごう  
高学年向け 2023年 冬号



## 『マップス 新・世界図絵』

アレクサンドラ・ミジェリンスカ、ダニエル・ミジエリンスキ/作・絵 徳間書店児童書編集部/訳 (徳間書店)

世界地図の上にかかれたイラストから、その国の特徴がわかります。

たとえば…フィンランドのロバニエミというところには、サンタクロースがすんでいるんだって！

もちろん私たちの住む日本も、いろいろなイラストで紹介されています。

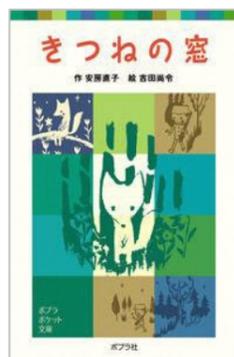
家族で読むと、世界旅行に行った気分になれるかも♪

## うちどく 家読とは

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく（家読）」です。  
難しいルールはいりません。

家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



## 『きつねの窓』

安房 直子/作 吉田 尚令/絵 (ポプラ社)

大好きだったけれど、もう二度と会えない人の姿を見ることができるとしたら、あなたは誰を見たいですか？

鉄砲をかついだ「ぼく」が、山で出会った子ぎつね。子ぎつねの青くそめた指で、ひしがたの窓をつくってみせると、そこには母ぎつねのすがたが見えました。「ぼく」も指をそめてもらい、のぞいてみると…。

表題作のほか9編が収録されています。

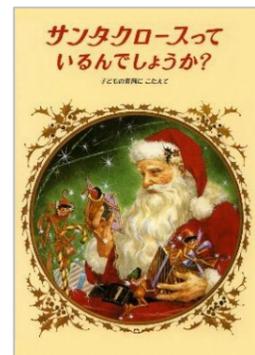


## 『耳の聞こえない子がわたります』

マーリー・マトリン/作 日当 陽子/訳 矢島 真澄/絵 (フレーベル館)

耳が聞こえないけれど積極的なミーガンと、耳が聞こえるけれど内気なシンディ。ミーガンの家の隣にシンディが引っ越してきてから、この正反対のふたりは大親友に！

4週間のキャンプに参加したふたりは、様々な経験をします。キャンプには、ミーガンと同じく、耳の聞こえない女の子、リジーも参加していて…。友情や、相手を思いやる気持ちについて考えさせられる作品。



## 『サンタクロースって いるんでしょうか?』

フランシス=P=チャーチ/著 中村 妙子/訳 東 逸子/画 (偕成社)

サンタクロースって、本当にいるんでしょうか？今から100年以上前、8歳の女の子の質問にこたえ、アメリカのある新聞社が返事を出しました。

みなさんはどう思いますか？サンタクロースにあった人はいますか？この本を読んで、一緒に考えてみましょう！



## 『急行「北極号」』

C. V. オールズバーク/絵・文 村上 春樹/訳 (あすなろ書房)

クリスマスイブ、サンタクロースを信じている男の子のもとに現れたのは、真っ白な蒸気につつまれた汽車、急行「北極号」でした。汽車の中は、パジャマ姿の子どもたちでいっぱい！

「北極号」の美しく幻想的な旅を、男の子と一緒に体験できます。サンタクロースにももらったプレゼントはなんでしょう？



## 『クローディアの秘密』

E. L. カニグズバーク/作 松永 ふみ子/訳 (岩波書店)

12歳の女の子クローディアは、ある日、弟のジェイミーを誘って家出を計画します。行き先は、メトロポリタン美術館。

美術館で一日過ごすなんて、わくわくしませんか？夜はどこで寝るのでしょうか？そして、クローディアは、美術館にある天使像の謎解きに挑戦します。冒険がしたくなる一冊です。